■北海道情報大学学内報

ななかまど

NANAKAMADO

(地方車)

第12回YOSAKOIソーラン祭り

(大通西8丁目ステージ)

(写真：岩村　篤人)

●目　次●

JABEEが謳う教育システムについて
経営情報学部長 林　雄二 …2
三本木孝前学部長の遺産 情報メディア学部長 井野　智 …3
学生満足度調査アンケートの結果について
点検評価アンケート実施小委員会 委員長 坂上修二 …4～5
本学専任教員の「教育・研究活動一覧」の発刊について
システム情報学科教授 中村鎮雄 …6
自己点検評価について 情報メディア学部教授 宇都宮芳明 …7
よろしくお願いします ……8～10
Library Information ……11
Yosakoiソーラン2003 ……12～13
第13回体育祭 ……14～15
主要行事・編集後記 ……16

発　行・北海道情報大学
〒069-8585　江別市西野幌59-2　TEL011-385-4411　FAX011-384-0134

JABEEが謳う教育システムについて

経営情報学部長　林(はやし)　雄二(ゆうじ)

1．大学が受ける評価

昨年度の中教審の答申を受け文部科学省は、学部・学科等の設置手続きについて、届け出で可能とする範囲を大幅に広げました。これは、設置時点では最低限度の条件を課すにとどめ、あとは大学の質の維持を市場原理に委ねようという考え方にほかなりません。今後は、形式ではなく実質、入り口ではなく出口、うたい文句ではなく結果(outcomes)が問われる時代になることは必至といえます。結果としては、教育成果、卒業生の進路、学生や卒業生からの評価、社会からの評価、さらに、教育システムの実行性などがあり、これらによって大学が評価され、場合によっては淘汰される可能性もあることを意味します。

技術者教育の質を保証する組織として、日本技術者教育認定機構(JABEE：Japan Accreditation Board for Engineering)が設立され、実質的な認定が始まって2年を経過しています。多くの大学の工学系学科で、その認定に向けて取り組みを始めています。大学が教育の改革として取り組むべき内容はJABEEの認定基準に謳われているといっても過言ではありません。以下では、本学のあるべき教育システムの姿を考える材料として、JABEEにおける認定基準を概観します。

2．JABEEの概要と認定基準

JABEEは、高等教育機関において、技術者の教育が国際的な水準を目指し、常に一定以上の卒業生の質を保証する教育システムがあることを認証するものです。その対象は、技術者教育を目標としている学科、コースなどで教育プログラムと呼ばれています。

JABEEにおいては、基本的に大学側が公表している教育の目標に向けて、それを実現し維持する教育活動のサイクル(plan-do-check-action)の存在が基本的な条件とされています。

以下では認定基準の内容の主たるものを抜粋して掲載することにします。

§基準1　学習・教育目標の設定と公開：◇自立した技術者の育成を目的として、プログラム独自の具体的な学習・教育目標が設定され、公開されていること。◇伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮して、特色ある学習・教育目標が設定され、公開されていること。◇学習・教育目標が社会の要求や学生の要望を考慮して設定されていること。

§基準2　学習・教育の量：◇学習保証時間(教員の教授・指導のもとに行った学習時間)の総計が1,800時間以上を有していること(注：124単位×15時間という算出に基づいている)。

§基準3　教育手段<3.2 教育方法>：◇カリキュラムが開示され、各科目とプログラムの学習・教育目標との対応関係が明確に示されていること。◇シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その教育の内容・方法、達成目標および成績の評価方法・評価基準が示されていること。◇授業等での学生の理解を助け、勉学意欲を増進し、学生の要望にも対応できるシステムが在り、実施されていること。◇学生自身にも、プログラムの学習・教育目標に対する自分自身の達成度を継続的に点検させ、その学習に反映させていること。*<3.3教育組織>*：◇FD(ファカルティ・ディベロップメント)が在り、活動が実施されていること。

§基準4　教育環境（省略）

§基準5　学習・教育目標達成度の評価：◇シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの目標に対する達成度が評価されていること。◇修了生全員がプログラムのすべての学習・教育目標を達成していること。

§基準6　教育改善<6.1 教育点検システム>：◇学習・教育目標達成度の評価結果を収集・検討し、教育内容、教育手段および教育環境等を点検する教育点検システムが在ること。*<6.2 継続的改善>*：◇教育点検の結果に基づいて　教育内容、教育手段および教育環境等の改善が行われ、必要があれば学習・教育目標、達成度の評価方法・評価基準等の改訂が行われていること。

3．まとめ

ここに盛り込まれているのは、技術者の教育に限らず、本来大学が保つべき教育姿勢にほかなりません。JABEEの基準が大学の教育システムのモデルを表していると捉え、これらを基に教育の改革に取り組むことが、大学の質の維持向上への有効な方法であると思います。

さらに、教育の効果を高めるために情報技術を活用することは、本学としての特徴を最も生かせる道であるはずです。すなわち、出欠の管理、電子的学習教材の活用、教務情報の公開、学生個人情報の活用、学生への掲示方式など、付随して取り組むべきは、教育を支援する情報システムの構築ではないでしょうか。

三本木孝前学部長の遺産

情報メディア学部長　井野（いの）　智（さとし）

健康上の理由で宇都宮芳朗初代学部長が辞任、その後を託された三本木孝前学部長も発令直前に病を得て入院、そのまま不帰の客となられました。長期療養を要するとの診断書を添えた学部長辞任届が受理され、私が三代目学部長に就任して10日目のこと、学部長としての初仕事が前学部長への弔辞奉呈となりました。

弔辞でもふれましたが、三本木先生は、情報メディア学部ができ2学部に分属することとなった教養科目担当教員からなる教養教育協議会を組織し、情報大学の特色を生かした教養教育のカリキュラム改正に卓越したリーダーシップを発揮されました。

三本木先生の遺産となった二つの教養科目、習熟度別クラス編成による「基礎数学」と学問の基礎技法を学ぶ「ビギナーズセミナー」は、この4月から経営情報学部一年時生に開講されています。両授業は、学生個々の基礎学力の向上、欠席が目立つ学生の登校促進、学生間あるいは学生教員間の交流の活発化などを目的としており、早くも成果はあがっていると伺っています。情報大学らしく、会議以外にもeメールを使って協議会メンバーとの意思疎通を図り、教養科目担当全教員の協力体制を築かれたことも同先生のご功績であると思います。

教育の改善に止まらず先生は、情報メディア学部の初代教務委員長として「教育施設改善に関するアンケート」調査を実施し、その結果を新校舎増築に反映させるなど、教育環境の整備にも尽くされました。4月下旬、三本木先生は入院先で浅井学園大学のキャンパス内禁煙に関する新聞記事を読み、親しかった穴田有一教授宛て「本学が分煙・禁煙に取り組む道内最初の大学であって欲しかった」とメールされています。本学の分煙体策が決まり間もなく着工の予定、前学部長の願いはここでも叶えられようとしています。

本学を大学らしい大学に育てようと努力された前学部長の方針を引継ぎ、今後の学部運営に力を尽くしたいと思います。

2年弱で完成年度を迎える情報メディア学部が取り組むべき課題は山積しています。専門科目の講義・演習内容の展開と充実、「メディア演習」「総合演習」の実施体制の確立、学部卒業生の受け入れを前提とする大学院専攻系列の改編、卒業生の就職先の開拓、就職指導と各種資格取得支援、完成年度以降の新カリキュラムの検討などです。

なかでも未曾有の不況下、新卒業生の就職支援は最重要課題となりましょう。最終的に就職は学生自身の学力と人間性で決まります。大学はジムと同じ、会費を払えばトレーナーの指導を受け機器や設備を利用することはできますが、ジムに行き自ら運動しなければ体重を減らし健康を保持することはできません。金で健康が買えないように金で学力を買うことはできないのです。

学生諸君、大学を最大限利用し、将来、実社会で存分に活躍できる学力と体力と人間性を養ってください。毎日大学へ行き欠かさず講義に出、空き時間には演習室や図書館で自習し、放課後はクラブ活動でグラウンドや体育館やサークル室が賑わう、講義時間だけでなくいつも研究室には教員がいて質問や相談にのってくれる、多くの学生が教職員はもちろん外来者にも普通に会釈できる、そんな活気ある風景が日常となる大学を一緒に創ってはみませんか。

学生満足度調査アンケートの結果について

点検評価アンケート実施小委員会
委員長　坂　上　修　二

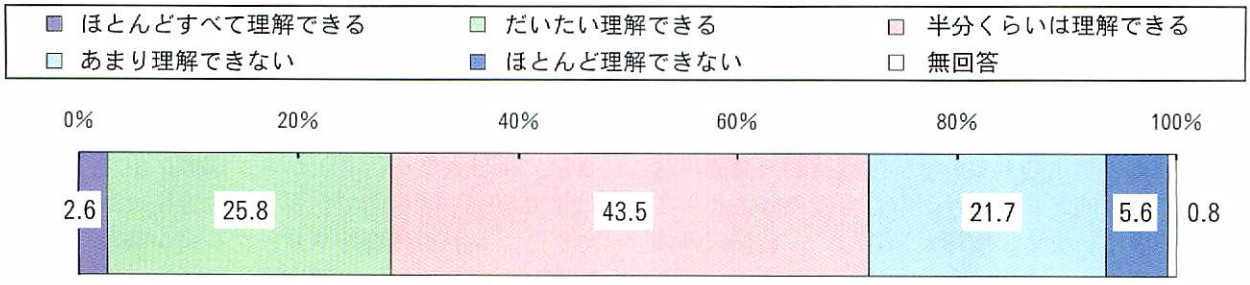
昨年10月に学生満足度調査アンケートが学生の皆さんのご協力のもとに実施されました。アンケートの質問項目は多岐に渡り、かつ相当の量であったため、回答するのが大変だったかと思います。在籍者数に対する回答率は73%と大変高いことから（回答者数は約1,000名)、結果の信頼度は十分なものになっております。

アンケート実施から既に9か月も経っており、あのアンケート結果はどうなっているのかと、皆さんは疑問に思っていると思います。アンケート結果は3月末にまとまり、こうして『ななかまど』の7月号でその概要をお知らせすることができるようになりました。

アンケート結果は全般的に相当厳しいのですが、一方で皆さんから肯定的に評価してもらっている部分もあります。以下に、代表的なものをピックアップして報告致します。

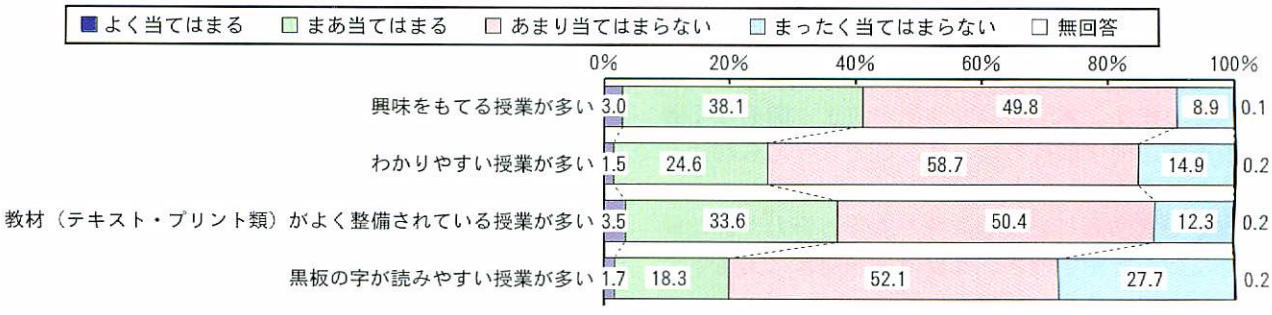
〔1〕『あなたは、現在受講している授業の内容をどの程度理解できていると思いますか？』の質問に対して、結果は以下のようになります。あまり理解できない、ほとんど理解できない学生の合計は27%で、約3割にも達します。この結果は、授業の構成、進め方、説明の仕方について各先生自身による再検討が必要であることを意味しております。

Q9　あなたは、現在受講している授業の内容をどの程度理解できていると思いますか？



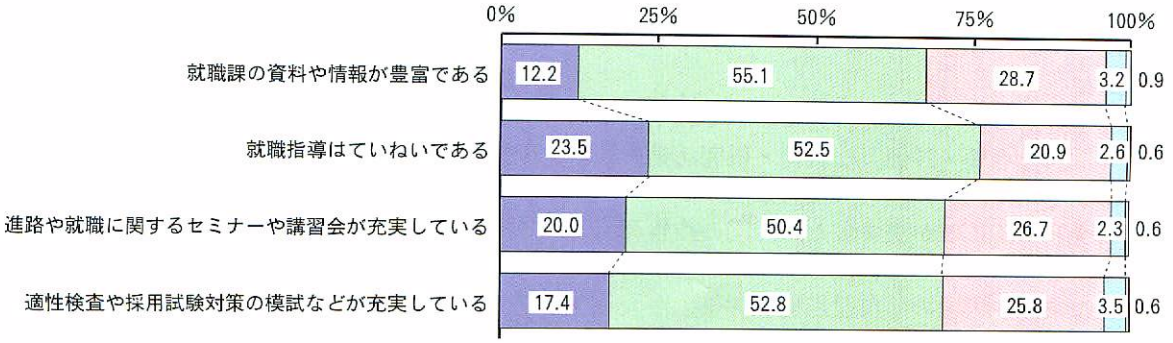
〔2〕本学を7つの分野で評価してもらいましたが、その中の授業についての結果を以下に示します。この結果は本来は11項目についての評価ですが、紙面の都合で4項目に絞っております。ご覧の通り、肯定的な評価（『よく当てはまる』＋『まあ当てはまる』）は平均して30%であり、大変厳しい結果となっております。11項目全体でも肯定的な評価は約35%に過ぎません。この結果も上の場合と同様のことを意味しております。

Q18　北海道情報大学についての以下の項目に関して、4段階で評価してください。
【A. 授業について】



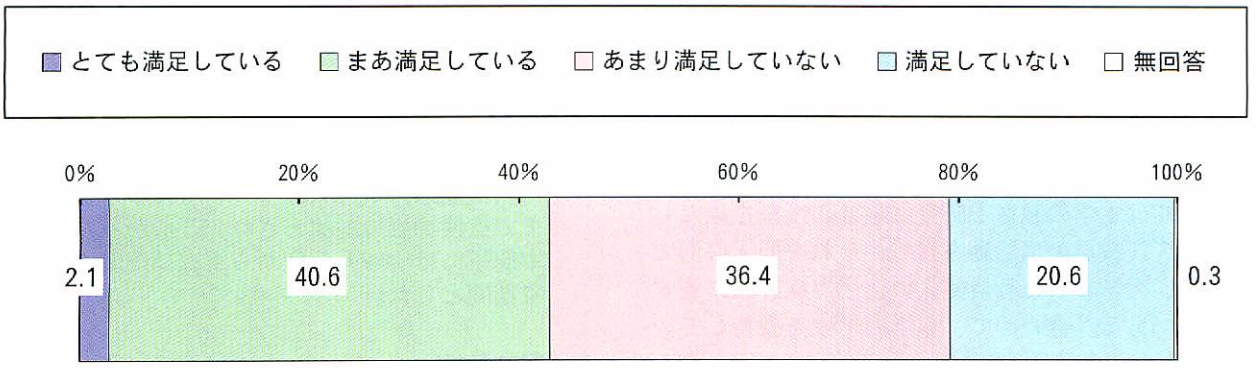
〔3〕一方、進路支援・資格取得支援の体制についての評価ですが、下図に示すように、就職指導に対する評価は非常に高く、実際に指導を受けた3年生と4年生からの評価であることから大変意義のある結果だと思います。下図の項目以外にも5項目（就職指導に直結しない項目）について評価を受けておりますが、肯定的な評価は残念ながら約30%しかありません。

【G. 進路支援・資格取得支援の体制について】



〔4〕『あなたは、全般的にみて、現在在籍している学部・学科に満足していますか？』という質問に対して結果は以下のようになります。あまり満足していない、満足していないの合計は57%にもなり、半分以上の学生は満足していないことが分かりました。これも大変厳しい結果と受け止めております。しかし、4年生になると逆に半分以上の学生が満足に転じており、ゼミ等の指導を評価しているのではないかと思います。

Q20　あなたは、全般的にみて、現在在籍している学部・学科に満足していますか？



ここに示した結果は全体のごく一部であり、詳細については図書館にある『自己点検・評価報告書』および『教育・研究活動一覧』とともに『学生満足度調査アンケート報告書』を参照して頂きたいと思います。報告書には全体的な傾向だけでなく、学科別、学年別などの属性毎の結果・分析が示されており、様々な観点からアンケート結果を見ることができるようになっております。

今回のアンケートから、授業、教育システム・カリキュラム、教員、教育施設、福利厚生設備などに関して大変厳しい結果を突きつけられました。教職員はこの結果を真摯に受け止め、原因がどこにあり、どのように改善すべきかを一人一人が先ず考え行動しなければなりませんし、大学としても早急に改善策を講ずる必要があります。以上、簡単ではありますが、学生満足度調査アンケートについての報告を終わります。最後になりましたが、アンケートの実施に際してご協力頂いた学生の皆さんと教職員の方々に深く感謝致します。

本学専任教員の「教育・研究活動一覧」の発刊について

システム情報学科教授　中村鎮雄

1．はじめに

平成14年度6月の点検評価委員会において、平成13年度版の「自己点検・評価」、「教育・研究活動一覧」および平成14年度版の「学生満足度調査アンケート報告」を発刊することが決まった。今回の点検評価が従来と大きく異なる点は、後の二つの冊子が追加された点にある。大学の「自己点検・評価」が大学全体の組織や運営の点検評価を行うのに対し、「教育・研究活動一覧」は教員個人の自己点検と言えよう。この小委員会のメンバーは穴田有一教授、伊藤佐智子教授、豊田規人助教授と私である。7月から月3回のペースで会合を持ち、議論を重ねて、冊子の内容と様式を検討した。同年9月の点検評価委員会において当部会の原案が大筋で承認されたのでさらに改善を図り、10月末に全教員に執筆を依頼して、11月下旬に大方の原稿を回収した。その後、提出された原稿の校正作業を数回行い、平成15年2月下旬にようやく発刊に至ったしだいである。

2．発刊の目的

北海道情報大学の「教育・研究活動一覧」を作成する目的は本学の教育と研究に重要な役割を果たしている専任教員の諸活動を纏め、それを冊子の形で公表し、大学および教員個人の自己点検評価に資することにある。合わせて、本学の学生を教育している教員がどのような活動をしているのかを社会に知って戴くというねらいもある。本冊子は500部印刷され、既に道内・外の大学や官公庁、教育委員会、道内の主要な市立図書館、本学の推薦入試の指定高校、道内の主要な放送局や新聞社および本学図書館に配布されている。

今回の冊子には学長を含め、平成14年度に在籍していた専任教員64名の略歴と活動が掲載されている。学生諸君に対する冊子の意義は、履修している科目担当教員の活動や略歴を知ることができる点にある。その結果、教員に対する理解と対話が促進されることが期待できるであろう。

3．編集方針

本学においてこのような冊子の作成は初めてであるため、小委員会では他大学の事例を色々調査検討した。その結果、各大学の同種冊子の様式は多様であり基本的に統一された様式は無いものと判断した。また、他大学の同種資料の良い処は積極的に取り入れることにして、次のような方針で冊子の様式と内容を決めた。

(1) 従来、教員の業績は研究面に偏って評価されてきたが、最近は教育活動や学内活動および社会に開かれた大学としての役割も重視され、社会貢献を含めて総合的に評価する傾向にある。したがって、今回の「教育・研究活動一覧」では「教育活動」、「研究活動」、「学内活動」、「学外活動」などの項目を設けて、出来るだけ教員の活動を多面的に捉えるように努めた。

(2) 冊子の名称は(1)項の趣旨を表現する名称として「教育・研究活動一覧」という名称にした。

(3) 冊子の見易さを考慮して教員一人当たりの紙数を1ページとした。しかし、レイアウトや文字サイズを工夫して、1ページという条件でも多くの情報を記入できるように努めた。

(4) 教員個人の研究業績については本学ではこれまで点検評価の対象とされてこなかったので、本冊子では平成元年度から平成13年度までを対象期間とした。

4．おわりに

「教育・研究活動一覧」の表紙デザインは本学が広大な野幌原始林の一角にある若々しい大学なので若草色で統一した。三個の交差した楕円は、穴田教授の発案により、大学の使命である教育・研究・社会サービスを表すものと意味付けを与えた。

最後に、本冊子の刊行を発議され審議過程の節目で激励を賜った久野光朗学長には、創刊号にふさわしい格調の高い巻頭言を書いて頂いた。また、事務局総務課の岩本和生庶務係長には、冊子刊行に関する事務的な仕事を一手に引き受けて頂き、縁の下で大いに助けて傾いた。ここに改めて厚く感謝申し上げます。

自己点検評価について

情報メディア学部教授　宇都宮　芳　明

今回の自己点検評価について、昨年6月11日に第一回点検評価委員会が開かれ、委員長の久野学長から今回の作業プランが示された。今回の報告書は、前回の平成10年度版の後を受けて、平成11年4月から平成14年3月までの研究教育活動を点検評価の対象とし、点検項目は前回に準ずることとされた。また今回は、点検評価報告書の作成と並行して、教員の研究活動一覧の作成と、学生生活の実態調査を行うことになった。この三つの作業は順調に進行し、その作業結果はそれぞれ『自己点検・評価報告』、『教育・研究活動一覧』、『学生満足度調査アンケート報告書』として公刊された。点検評価にかんして一度に三つの報告書が出揃ったのは今回がはじめてであり、それだけでも今回の作業は充実した成果を収めたと言える。

ここでは『自己点検・評価報告』だけを取り上げることにするが、この報告書では、各学部学科、通信教育部、大学院、各種委員会の活動状況、その他の学内活動、広報活動の順に点検評価がなされている。各項目は、それぞれ関連する教員・職員が執筆し、最後に私が原稿を取りまとめる作業をした。それぞれの項目では、今後改革を必要とする問題点が指摘され、また改革の方向が示されているが、この改革方針は、平成14年4月以降、各方面で生かされている。たとえば、経営情報学部や通信教育部のカリキュラムについては、平成15年4月からの経営情報学部の学科名変更に伴い、改革方針にそった変更がなされ、新一年生からこの新カリキュラムが実施されている。教養教育科目では総合講義「情報社会と科学」が開設され、また学生の資質の向上を目指して、「基礎数学」や「ビギナーズセミナー」も導入された。情報メディア学部でも、学部が完成する平成17年3月以降のカリキュラム改正を目指して検討委員会が設置され、情報メディアの教育にいっそう適した新カリキュラムの検討がはじまっている。また大学院でも、同じく平成17年4月からの拡充と整備を目指して、すでに検討委員会が設置されている。通信教育部では、懸案だったe-Learningシステムが本年10月から正式に運用を開始する。電算機教育運営委員会からの情報処理教育センター設置の提言も一部生かされて、「情報センター」が誕生した。学生関係では、学生相談室が開かれ、また学生の資格取得や就職活動を円滑に推進するための「学生サポート連絡協議会」も発足した。アカデミック・ハラスメントにも対応した「ハラスメント防止委員会」やその「調査調停委員会」が設置されたことも、大学内の規律の向上に寄与するものとして評価される。このように見てくると、今回の平成13年度版報告書で示された改革方針はすでに着々と実行に移されていて、報告書の内容もやや古くさくなった感があるが、しかしこれはむしろ喜ばしいことであろう。

報告書冒頭の学長の言葉にあるように、大学が自己点検評価をし、それを社会に公表することは、大学の社会的責任である。そこでは社会が大学に要求している機能を大学が十分に発揮しているかどうかが問われるが、まずはこの要求に応えていることが大学の基本的な社会的責任であろう。これまた学長が『教育・研究活動一覧』の冒頭で示されているように、大学は、知の創造と発見にかかわる「研究」、その知の伝達にかかわる「教育」、その知の応用としての「社会貢献」という三つの機能を果たすべき複合的組織である。また今日大学が置かれている状況の下では、大学の個性化（大学が誇りとする顔をもつ）ということも必要であろう。今後もたえず自己点検評価を行い、改善すべき点は速やかに改善する措置を講ずることが、大学の発展のためにも望ましいことである。

よろしくお願いします

昨年9月におひとり、本年4月1日付で4人の先生が新たに着任されました。簡単なプロフィールや趣味等を含めて戴きながら自己紹介をお願い致しました。（掲載は順不同）

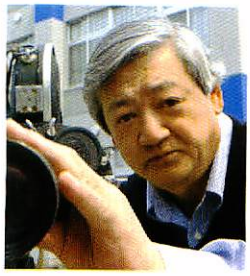
経営情報学部 助教授

斉藤康彦（さいとうやすひこ）

昨年の秋に着任して、間もなく一年近くが過ぎようとしています。関東で生まれ育ち、北国での生活は初めてでしたので、雪と寒さが心配でしたが、覚悟をしていたせいか、体調を大きく崩すこともなく、冬を越すことができました。

学生時代には、国文学をやっていました。作家になるのが夢で、特に、谷崎潤一郎や川端康成が好きでしたが、理論を欠いた作品分析を展開する授業に疑問を感じているうちに、米国の女流作家G.スタインと、言語学者N.チョムスキーに出会って、小説を書くことよりも、「小説家を書く」ことに関心を抱くようになりました。これは、小説を日本語で書くのではなく、小説を書くプログラムをプログラミング言語で書く、という意味です。在学中は、コンピュータに触れる機会はありませんでしたが、プログラミングをやりたかったので、情報処理サービスの企業に就職しました。入社後の数年間、技術者として、汎用機のユーティリティ、機械翻訳用辞書管理システム、OSのテスト管理システム、COBOLの静的解析ツールなど、コンピュータの専門家が使うソフトウェアを開発しました。その後は、研究職となったので、いわゆる業務アプリケーションの開発経験は、ほとんどありません。

本学に参りまして、昨年度は、「プログラム言語Ⅱ」を担当し、今年度は、それに加えて、「ソフトウェア概論」「データベース入門」「情報専門演習」を担当しています。いずれも、1、2年生を対象としていますが、3、4年生でより高度な専門知識を学ぶ上での基礎を作る科目であると認識しています。私にとって、プログラミングは、楽しいものであると同時に、企業での経験から、恐ろしいものであるという実感があります。そもそも、ソフトウェア工学の目的は、ソフトウェア開発の過程で発生するリスクに対処することです。楽しさの中に潜むリスクとの付き合い方を、学生に伝えていく必要があると考えています。



情報メディア学部 助教授

上原士郎（うえはら しろう）

この度、情報メディア学部助教授に着任しました上原士郎です。本年3月まで、NHK、そして㈱NHKテクニカルサービスというところで主にドキュメンタリー番組の制作に従事して来ました。メディアの映像は16㎜、35㎜という映画フィルム白黒時代から、VTR2インチ、1インチ、3/4Uマチック、1/2ベータ、D-3VTRと数年毎に進歩し、今は、デジタル・ハイビジョン時代となりました。動く映像がフランスとアメリカでほぼ同時に生まれて、100年とちょっとになります。日本でも映画は一時期大繁栄しましたが、今は少し元気がありません。学校では映像デザインと演習、メディア演習を担当しています。映像で何を表現していくのかがテーマとなります。34年前東洋のスイスと言われた美しい湖「諏訪湖」が日本の高度成長を背景に水面を汚染するアオコの発生と日本社会の歪を表現し、放送した「ある湖の物語」(昭和45年芸術祭賞)というドキュメンタリー番組をスタートとして、「札幌オリンピック」「北転船(200カイリ)」「早期警戒機E-2C」「シルクロード(日中共同制作)」「再会・中国残留日本人孤児」「謎のコメ(ハイブリッド、ライス)」「米・ソ謎のUターン」「エイズ」そして最後になった「化学兵器」など、NHK特集という番組を中心に取材して来ました。又、潜水士の免許を取得し、世界の海の一部も紹介して来ました。何度か命を失いそうになった取材もありました。次から次へと襲ってくる放送時間に汲々としながら送ってきた37年あまりの取材カメラマン人生から一転して、エゾリス、シジューカラ、ヤマガラが声をかけて迎えてくれる学園への登校は夢のようです。今一度、人間をみつめ、社会をみつめ、そしてしっかりと自然をみつめて、今まで培って来た映像づくりのノウハウをその術を学生たちとともに勉強していこうと武者ぶるいしております。どうぞ、よろしくお願い致します。

経営情報学部 助教授

竹内典彦（たけうち のりひこ）

このたび、ご縁がありまして、経営情報学部助教授に着任しました竹内典彦です。担当は、英語Ⅰと英語Ⅴです。学生の英語力向上はもちろんのこと、コミュニケーション能力向上のために、テーマに沿ってのグループ討論と発表を中心とする講義を展開しています。

本年3月末まで、北海道の高等学校の教員として、22年間英語を教えてきました。大学時代に米国南イリノイ大学で、1年間の留学生活を送りました。高校の教員になってからは、英国ベルスクールとエセックス大学で、半年間の研修をいたしました。また、筑波大学の大学院で学位を得る機会も得ました。

専門は「第2言語習得」です。つまり、母国語(第1言語)以外の言語として、英語や他の外国語の習得を研究しております。とりわけ語彙の習得について調査研究しております。

英語と日本語では文字も発音も大きく異なりますが、言語としての共通の特徴もあります。たとえば英語の場合、アルファベットを組み合わせて様々な

単語を形成していますが、文字のまとまりの一部は、意味としての特徴を持っています。たとえば、re-=again（再び）の意味であることを、英語学習者の多くは知っています。日本語としてよく耳にするものだけでも、relax, refresh, reform, remake, returnなどがあります。

私たちが用いている漢字も、様々な「偏」や「つくり」を組み合わせているわけで、既存の知識を利用して、漢字を新たに覚えることが可能になっています。英語の学習者には、こうした英語の綴りの特徴に、もっと関心を持ってもらいたいと思います。他にも「比喩」や「主語の省略」など、日本語とは多少の「感覚的相違」もありますが、共通点も多い特徴が、いくつもあります。こうした知識を持つことが、外国語習得を促進するものと考えています。

北海道情報大学の英語科目は、必修単位数も多く充実しています。学生さんたちには、コンピューターと英語（そしてドイツ語、中国語、ロシア語をはじめとしてその他の言語も）を通じて、世界中の情報を有効に利用してほしいと願っています。そのお手伝いが出来ることは、英語の教員として本当に幸せです。スポーツ（特に野球）と囲碁が趣味ですので、そうしたことでも交流を持てればと考えています。

最後になりましたが、学生の皆さん、教職員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

情報メディア学部 助手

金（キム）　義鎮（ウイジン）

はじめまして。今年4月から北海道情報大学情報メディア学部に着任した金　義鎮です。

私は1998年から北海道大学大学院工学研究科で勉強し、2000年に修士学位を取得、同年に同大学院の博士課程に入学、2003年に博士学位を取得しました。（専攻は、電子情報工学専攻）専門分野は、ディジタル画像を用いた物体の認識を行うということです。

私は、日本に留学する前、韓国で色々豊富な経験をしたと思います。韓国の大学を卒業後、北朝鮮がすぐ見える国境線の近くで軍人として2年半勤務しました。（韓国には兵役義務があります。）

その後、電子関連会社に入社し、金融システム事業部の新技術開発チームで約2年間働きました。でも、専門分野に関する知識をもっと習得したいという気持ちが強かったため日本へ留学することを決めました。もちろん、安定な職場を辞めてもう一度勉強することについて、周りの友人や知人からは心配の声もありました。しかし、自分に一番興味がある分野の勉強を一層深く研究したいという気持ちが高かったため、自分がやりたいことに勝負をかけました。

今年で来日6年目を迎えます。しかし、6年前のその勝負が終わったとはまだ思いません。なぜならば、ここ北海道情報大学に来て、さらに大きな勝負に関る分野の担当を任せられたからです。

すでに知っている方もいるとは思いますが現在我々の大学には、道内では唯一の先端機器を誇るmotion capture systemやvirtual studio system, non-linear編集機などが今年4月から導入されています。この機材の応用としてはまだ私も完全に調べられないほどの無限の可能性があります。これを成功させることがここでの私の新しい勝負だと思います。

特に、私と一緒にその勝負をしたいと思う学生がいれば、いつでも私のところ（127室）に来てください。

Library Information

資料を探すために

図書館

レポート作成や、日常の勉学で様々な資料が必要かと思います。図書や雑誌の論文など資料の探し方の一部を紹介致します。

(1) 本学で所蔵する、図書や雑誌を検索する。

① 北海道情報大学のホームページを開き、図書館をクリックする。

② 蔵書検索のページになりますので、タイトルの単語を、入れて検索する。
検索結果が多いときは、同じ作業を繰り返して、件数を絞り込んでいく。

③ 北海道情報大学のURLは、
http://www.do-johodai.ac.jp/　です。

④ 図書館のURLは、
http://libsrv.do-johodai.ac.jp/library/
です。

(2) 本学で所蔵が確認できなかったときは、国立情報学研究所の蔵書検索を使ってみる。

① URLは、http://webcat.nii.ac.jp/　です。

② 検索結果は一覧になって表示されます。

③ 目的の資料が見つかったら、クリックします。

④ 所蔵している図書館が表示されます。

(3) 次のような場合は問い合わせ願います。

① 雑誌の論文を複写したいが、論文名の一部しかわからない。

② 昔読んだ本で、作者しかわからない。内容の一部を記憶している。

③ 資料は、なんでもいいが、特定の事項を調べたい。

(4) 見たい図書を本学図書館で購入してもらいたい。
学生希望図書購入申込書に記入して、図書館に提出する。

(5) その他わからない事があれば、何でも本学図書館にお問い合わせ願います。

※ 教科書は自分で購入するものです。
図書館では原則として所蔵しておりません。
各自、事前に手配願います。

Yosakoiソーラン 2003

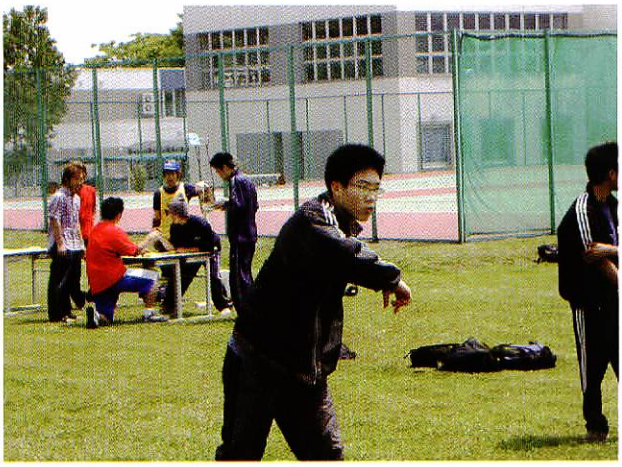
by 江別まっことええ &北海道情報大学

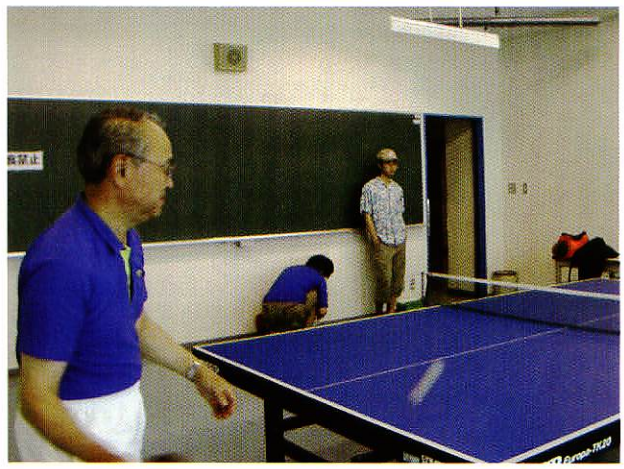
2003
6／7（土）
6／8（日）

第13回 体育祭

DATE
2003. 7.25～26

MEMORIAL PHOTO by 体育祭





◇◆ 教職員の動向 ◇◆

☆ 法 人 本 部 ☆

異動（6月1日付）
企画調査室　係長　吉付　美穂
大学総務課　係長＜兼務＞

☆ 大　学 ☆

＜教　員＞（6月1日付）
情報メディア学部長　井野　智
図　書　館　長　浪田克之介

＜事務職員＞
採用（5月19日付）
情報センター事務室長補佐　市川　泉

退職（5月21日付）
情報センター事務室長　島田　勝

配置換（6月1日付）
教　務　課　中村　正志（総務課）

◇◆ 4月～6月主要行事 ◇◆

☆ 法 人 本 部 ☆

4月16日(水)　北海道情報大学校舎棟増築工事竣工修祓式
25日(金)　第1回広報連絡協議会
5月27日(火)　理事会

☆ 大　学 ☆

4月3日(木)　経営情報学部教授会
〃　情報メディア学部教授会
7日(月)　入学式(経営情報学部　224名
通信教育部　513名
情報メディア学部　212名
情報メディア学部3年次編入学　10名
大学院経営情報学研究科　8名
9日(水)　新入生宿泊研修
10日(木)　〃
25日(金)　全学教授会
5月8日(木)　ハラスメント防止のための啓発・学習講演会
23日(金)　情報メディア学部教授会
30日(金)　全学教授会
6月10日(火)　創立記念日
13日(金)　経営情報学部教授会
20日(金)　情報メディア学部教授会
25日(水)　体育祭
26日(木)　〃
27日(金)　全学教授会

☆ 通信教育部 ☆

＜入学選考＞
4月2日(水)　第8回入学者選考
9日(水)　第9回入学者選考
＜前期地方スクーリングⅠ＞
5月30日(金)～6月1日(日)　新潟
6月6日(金)～6月8日(日)　全国15か所
6月13日(金)～6月15日(日)　名古屋、広島
＜前期地方スクーリングⅡ＞
6月13日(金)～6月15日(日)　福岡
6月20日(金)～6月22日(日)　全国16か所
＜前期レポート提出期間＞
6月23日(月)～6月30日(月)

◇◆ 広 報 活 動 ◇◆

＜AO入試説明会＞
5月25日(日)　於；本学
＜高校教諭対象大学説明会＞
5月26日(月)　於；札幌後楽園ホテル
＜オープンキャンパス＞
6月22日(日)　於；本学
＜進学相談会＞
5月；北海道9会場、青森県3会場、秋田県1会場、岩手県1会場、新潟県1会場
6月；北海道11会場、青森県1会場、岩手県1会場
計28会場
＜高校内進学ガイダンス＞
4月；北海道1校
5月；北海道4校
6月；北海道19校、青森県1校　計25校
＜高校訪問＞
4月；北海道 56校
5月；北海道249校
6月；北海道 99校　計404校

◇◆ 主な来校者 ◇◆

5月19日(月)～5月24日(土)　監査法人トーマツ
公認会計士2名、会計士補1名
6月13日(金)　釧路工業高等学校　教員2名
6月25日(水)　㈳文教施設協会及び協会会員　62名
6月26日(木)　日本私立学校振興・共済事業団　職員2名
〃　北海道野幌高等学校　生徒76名(1年生)、教員4名

◇◆ 特 記 事 項 ◇◆

6月26日(木)　日本私立学校振興・共済事業団による平成14年度及び同年度以前の経常費補助金に係る事前調査

◇◆ 訃　報 ◇◆

情報メディア学部　三本木　孝　教授　6月10日逝去

編集後記

1年に4回発行している学内報。ついこの前発刊したのに、もう次の号がやってきたというのが、正直な感想である。 最近、学内報も話題が多く、だんだんと掲載の分量が多くなる傾向にある。嬉しいかぎりである。より多くの話題をたくさんの方々に読んで頂ければと念願しています。

北海道情報大学学内報
「ななかまど」第27号
発行日　平成15年7月1日
発　行　北海道情報大学
編　集　学内報編集委員会